



稼働 60 年以上の原発を動かすな！

老朽原発の期限延長は

危！険

原発推進への大転換

今年 8 月、岸田首相は、脱炭素社会の実現に向けた会議で、原子力発電の推進に大きく舵を切る方針を示しました。福島第一原発の重大事故の後に堅持してきた「原子力発電所の新・増設はしない」という方針を投げ捨て、新型原発の開発を進めて新增設する、現存する原発の再稼働を進めることに加え、稼働から 60 年以上たった原発を稼働させることまで検討すると言い出したのです。

原子力発電所の寿命は、開発された時には 30 年と言われていました。現在は、「原子炉等規制法」で 40 年と決められ、原子力規制委員会の審査を経て、1 回だけ延長して、例外的に 60 年までの稼働が認められています。しかし、原則はあくまで 40 年です。

2011 年 3 月、福島第一原発 1 号機が重大事故を起こしたのは 1971 年 3 月に運転を開始してから丁度 40 年、検査の結果 40 年を

超えて運転しても大丈夫との評価を得たばかりでした。しかし、地震と津波で重大事故になり、核燃料はメルトダウンしてしまいました。

材料の劣化、古い設計、プラントをよく知る人がいなくなる... 老朽原発の危険性

時間が経てば、原発設備のあらゆるものが劣化します。一番恐れられているのは、核燃料が入っていて中性子線を浴び続けている圧力容器が脆くなることです。急に冷やされた時に割れてしまえば、当然、重大事故になります。配管など膨大な設備も点検しきれものではなく、思わぬところから水漏れを起こすことがあります。長大な電線網など交換できないところもあります。老朽化が進めば進むほど危険性が増すのは当たり前のことであり、だからこそ 40 年という区切りが決められたのです。

全造船関東地協労働組合

一人でも誰でも入れる労働組合 **よこはまシティユニオン**

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX 045-575-1948

ホームページ <http://yuniyoko.sakura.ne.jp>

【2022 年 11 月 11 日】

福島第一原発1号機の事故は、緊急冷却装置の作動状態を知っている人がいなかったのがメルトダウンした一因といわれています。60年以上運転するという事は、その原発を設計・建造した人、プラントのことを知り尽くした人がいなくなるということでもあります。

しかも、日本は世界で最も地震の多い国です。大きい地震に一度は耐えた原発でも、老朽化が進んだ何十年か後に、もう一度大きい地震が来たら耐えられるのでしょうか。

「新開発の原発は安全」と主張する一方で 老朽原発を稼働させる矛盾

新しい原発の開発・建設を進めようとする人たちは、安全性の高い新しい設計なので事故の可能性は低くなる、たとえ事故が起きても大きな被害は防げる、と主張します。

それが本当だとすれば、今ある古い設計の原発は、新開発の原発より危険性が高いこととなります。しかも老朽化が進みます。危険性が高いのであれば全部廃炉にしなければならないのに、稼働から60年以上の古い原発も使い続ける。こんな矛盾したことを平気で打ち出す政府は、原発の危険性と人々の安全を真剣に考えているとは思えません。

莫大な資金を使って新しい原発を作っても、核燃料の再処理、放射性物質の最終処分、放射線を浴びる労働の問題を何一つ解決できない現状に変わりはありません。

原発推進への政策転換には断固反対です。

【組合員 N】



■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした4～8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！